

神奈川大学 vs 青山学院大学

4月20日(日)
11:30K.O.
青学大G

3連勝と絶好のスタートを切った神大に対し、青学大は1勝1敗1分の五分。昨季は接戦の末、青学大が2勝している。神大の連勝を止めることはできるか。

神大は前節、拓大に4-0と大勝して3連勝。試合全体を通して常に主導権を握り、相手にシュート1本しか許さない完勝であった。これで3試合で13得点、それもほとんどが流れの中からの得点だ。「前目でボールを取れる積極的なサッカーをしようと言ってきたので、理想の形で点が取れた」と松永道敬総監督が話したように、高い位置でボールを奪い、長短織り交ぜたバラエティに富む攻撃で4得点。初スタメンのMF西田子龍(3年)も1得点1アシストと活躍した。また、「相手のミスにも助けられて、守備も崩れることはなかった」(松永総監督)と守備面も危なげなかったが、複数得点をして失点も多かったのが昨季からの課題だけに、得点力のあるチームとどう渡り合うか、真価を見たい。

対する青学大は前節、連勝中であった法大と2-2で引き分けた。お互いに攻撃力に自信を持つだけに、積極的に攻め合う好ゲームではあったが、青学大としては結果的に2度のリードを守り切れなかったという試合展開。終盤は相手に押し込まれ、守備に奔走してなんとか

勝点1を確保した。攻撃では、自分たちの意図した形から16本のシュートにつなげるなど、目指すものは発揮できていると言える。課題は守備と、終盤の運動量。「修正したいのは守備だが、攻撃は法大相手にやれた部分も多かったの、どんどんやっていきたい」(DF服部真矢主将・4年)。今節は攻撃陣が絶好調の神大が相手だけに、守備の質を高めていきたいところ。

<昨年の対戦>前期/神大1-2青学大、後期/神大1-2青学大

神大		青学大	
3. 高木	23. 西田	7. 荒木	2. 堤
29. 南	10. 伊東		5. 京谷
	16. 武田		14. 伊藤
12. 黒沢		27. 角宮	1. 高橋
		10. 関谷	
6. 前田			8. 後藤
5. 杉山	11. 星		3. 御牧
	32. 斎藤	11. 恵	
7. 長野			6. 服部

日本体育大学 vs 拓殖大学

4月20日(日)
13:50K.O.
青学大G

3試合で敗戦はないが前節で連勝が途切れた日体大と、まだ勝利のない拓大との対戦。日体大が無敗を守るか、それとも拓大の初勝利なるか。

久々の2部リーグで連勝スタートを切っていた日体大は前節、日大と対戦してスコアレスドローに終わった。過去2試合は「後半型」の戦いを見せていた日大が、前半から早目に縦へのボールを多用して攻め込んできたことから、「最初は少し戸惑って、前半は耐えるようなゲームになってしまった。相手が身体を張ってくるプレーが多かったが、そこで負けなかったのはよかった」(倉又寿雄監督)。前半は守備主体となってしまったが、後半はシュートを1本も許さなかった。また、攻撃では荒れたピッチ状況にも影響されて思うようなボール運びができず、得点には至らなかった。DF広瀬健太主将(4年)を前の試合の負傷で欠きながら、守備で耐えて勝点1を取ったのは収穫だが、得意のセットプレーを含め、勝ち切る試合をしていきたい。

一方の拓大は前節、首位の神大に0-4の敗戦。開幕3試合で、未だ無得点だ。何かきっかけがほしいところだが、前節はシュートさえも1本に抑えられてしまった。パス回しに固執している間に、相手の早い寄せにあ

って手詰まりとなり、ボールを奪われるとショートカウンターで攻められるシーンが続いた。失点するまでは拮抗していても、第2節、第3節とも先制点のあとすぐに2失点目を喫しており、一気に形勢不利を招いている。「力のある相手なので失点は仕方ないとはいえ、2点目が早過ぎる。試合の流れを読んでプレーしないと」(青木智也コーチ)。先制できるのが理想だが、失点しても下を向くことなく、粘りのプレーを期待したい。

<昨年の対戦>リーグ戦での対戦はなし

日体大		拓大	
2. 高野	17. 高井	24. 多田	2. 谷川
29. ンドカ	10. 阿部		6. 紙谷
	18. 川戸		27. 森川
1. 伊藤		20. 河野	21. 佐川
		8. 菅能	
4. 桂			31. 宗像
20. 高野	7. 長谷川		5. 高橋
		16. 大森	
	11. 小山		34. 緋田
26. 福田			

予想布陣は直近の試合を参考に作成しています

JR 東日本カップ 2014 第 88 回 関東大学サッカーリーグ戦

if OFFICIAL MATCHDAY PROGRAM
Division2 2014-NO.4

編集：五味亜矢子 発行：(一財)関東大学サッカー連盟 協力：関東大学サッカーサポーターズクラブ



3連勝は神大と関学大!

JR 東日本カップ 2014 第 88 回 関東大学サッカーリーグ戦・2部リーグは、序盤の3節を終えた。開幕から3連勝を飾ったのは神大と関学大の2チーム。神大は拓大に対し、前節に続く4-0の勝利、関学大も平国大から5点を奪って大勝した。連勝が途切れたのは、日大と引き分けた日体大、青学大と引き分けた法大、そして東農大に0-1と今季初黒星を喫した東学大だ。東農大と、産能大を4-0で下した東洋大が今季初勝利を飾った一方で、平国大、拓大、産能大の3チームはまだ勝利がない。

今節も、前節から中2~3日での開催。そして第5節からはゴールデンウィークの過密日程が待っている。序盤は大差がつく試合が

得点ランキング		アシストランキング	
3: 伊東 純也 (神大)	中村 瞬 (関学大)	2: 長野 祐太 (神大)	太田 一輝 (関学大)
2: 菅沼 優聖 (関学大)	菅野 翔斗 (神大)	桂 大晴 (日体大)	白石 智之 (法大)
高木 利哉 (神大)	星 広太 (神大)	斉藤 昂太 (東洋大)	1: 全 24 名
富樫 敬真 (関学大)	山田 悠策 (東学大)		
星子 直哉 (平国大)			

例年になく多くなっており、上位と下位の差が開いてしまうのか、下位チームは早いうちにリズムをつかみたいところ。第4節、拮抗した試合が見られるか!?

JR 東日本カップ 2014 第 88 回 関東大学サッカーリーグ戦 星取表

(第3節終了時)

順位	2部	神大	関学大	日体大	法大	東学大	日大	青学大	東洋大	東農大	平国大	拓大	産能大	勝数	負数	点数	得点	失点	得失	勝点
1	神大		6/15	5/11	5/25	5/3	4/27	4/20	5/18	5/6	5○3	4○0	4○0	3	0	0	13	3	10	9
2	関学大	日体大G		5/25	5/17	4/27	5/5	5/10	5/2	2○1	5○0	2○0	4/19	3	0	0	9	1	8	9
3	日体大	日体大G	BMWス		4/26	5/6	0△0	5/17	6/15	5/3	2○1	4/20	4○1	2	0	1	6	2	4	7
3	法大	東洋大G	青学大G	日体大G		6/14	5/11	2△2	4/20	1○0	5/6	3○0	5/3	2	0	1	6	2	4	7
5	東学大	保土ヶ谷	東洋大G	ゼットエー	法大G		5/25	2○0	1○0	0●1	4/19	5/10	5/17	2	1	0	3	1	2	6
6	日大	三ツ沢陸上	ゼットエー	0△0	法大G	産能大G		1●2	1○0	4/20	5/18	5/2	6/14	1	1	1	2	2	0	4
7	青学大	青学大G	保土ヶ谷	青学大G	2△2	0●2	2○1		5/25	6/14	5/3	4/26	5/6	1	1	1	4	5	-1	4
8	東洋大	たつご	横須賀	日体大G	上柚木	0●1	0●1	東洋大G		5/11	4/27	5/6	4○0	1	2	0	4	2	2	3
9	東農大	駒沢陸上	1●2	保土ヶ谷	0●1	1○0	上柚木	法大G	日体大G		5/24	5/18	4/26	1	2	0	2	3	-1	3
10	平国大	3●5	0●5	1●2	千葉東総	産能大G	上柚木	味スタ西	東洋大G	千葉東総		6/14	5/11	0	3	0	4	12	-8	0
11	拓大	0●4	0●2	青学大G	0●3	たつご	横須賀	日体大G	千葉東総	上柚木	産能大G		5/25	0	3	0	0	9	-9	0
12	産能大	0●4	産能大G	1●4	BMWス	ゼットエー	産能大G	ゼットエー	0●4	古河	法大G	産能大G		0	3	0	1	12	-11	0

体育会学生のための
リクナビ就職エージェント

戦いの中に、成長がある。

部活と就活にエールを送る! 体育会学生のための「リクナビ就職エージェント」

リクナビ 体育会

RECRUIT

東京学芸大学 vs 平成国際大学

4月19日(土)
11:30K.O.
産能大G

連勝の途切れた東学大と、3連敗スタートの平国大との対戦。どちらも、決して多くはないチャンスをいかに得点に結びつけるかという試合展開をしてきたチーム。今回、より多くのチャンスをつかむのはどちらか。

無失点で2連勝を飾っていた東学大だったが、前節は東農大に0-1と今季初黒星を喫した。前半、連敗脱出を狙う東農大の積極的な攻撃に受け身となり、「個の能力で突破してくる相手に対して、対応が甘くなった」(檜山康監督)。結果的には、ミドルシュートで決められた43分の1失点に抑えたものの、後半は守備の意識が強くなった東農大の守備を破ることはできなかった。攻撃に関しては、前半はやや単調で手詰まりになるシーンが目立ったが、後半は修正して動きが活性化された。3試合とも、記録上のシュート数が少ないことは気にかかると。ここ数年も、ボール支配率は高いながら得点力不足が課題だっただけに、いかに攻め切れるかが鍵だ。

対する平国大は前節、関学大に5点を奪われ完敗した。中2日での試合とはいえ予想外の大量失点に、西川誠太監督は「(感想は)何も無い。今日はうちのチームではなかった」と言うにとどまった。「完敗」というゲームはあまりないチームだけに、ショックというより切

り替えが必要だろう。内容的には、攻めている局面で簡単なミスや相手の出足の早さからボールを奪われ、切り替えの遅れから失点を招いた。言ってみれば、関学大の術中にはまってしまった格好だ。運動量では引けを取らないはずだが、局面での対応に課題を残した。「攻めた後のバランスをなんとかしたい」(西川監督)。攻めた後の対応に注意したい。

<昨年の対戦>前期/東学大3-1平国大、後期/東学大2-2平国大

東学大	平国大
16. 富澤	11. 千葉
7. 佐藤	10. 堀越
23. 永井	26. 小松崎
10. 佐々木	15. 堀越
14. 平田	9. 星子
1. 須賀	3. 深井
8. 菅	1. 荒川
4. 脇本	25. 猪瀬
9. 山田	6. 福嶋
18. 久保	29. 木曾
5. 廣木	2. 増田

東京農業大学 vs 日本大学

4月20日(日)
11:30K.O.
上柚木

前節、今季初勝利を挙げた東農大と、1勝1敗1分の五分となっている日大との対戦。3試合とも1点差以内の均衡した内容となっている両チーム。試合の行方は最後までわからないだろう。

東農大は連敗で迎えた第3節、東学大に1-0で勝利した。最終的に、43分に相手のクリアボールを拾ったMF岡庭裕貴(2年)の素晴らしいミドルシュートで勝負は決まったが、徐々にスタメンに名を連ねたFW相川優介(4年)が前線でボールを引き出して攻撃のリズムをつくり、また、MF岡庭を含む中盤の選手がセカンドボールを支配し、前半は優位に試合を進めた。しかし、後半は一転して防戦一方となり、終盤は退場者も出し、なんとか1点を守り切ったというゲームであった。「厳しい戦いだったが、やっとチーム一丸となって勝てた。身体を張って守備ができた」(木村俊夫コーチ)。この1勝がチームのムードを変えるか。

対する日大は前節、日体大と対戦してスコアレスドロー。連勝中で、昨季1部リーグの日体大から勝点1を奪ったことは、一定の評価はできるだろう。「上位チームに勝とうという意識が前面に出ていたし、数は少なかったがチャンスも作れていた」と城啓二総監督が話したよ

うに、過去2試合から一変、前半から積極的に攻撃を仕掛けて日体大を苦しめた。しかし、先手必勝を目論んだものの得点には結びつかず、逆に後半は守備に奔走することになってしまった。GK谷俊勲(3年)が安定したプレーを見せ、無失点に抑えたことは今節につなげたいところ。今節は、似た部分も多い東農大との対戦。先手を取って、勝利に結びつけられるか。

<出場停止>和気竜也(東農大)
<昨年の対戦>リーグ戦での対戦はなし

東農大	日大
3. 加藤	25. 大谷
8. 佐々木	33. 山本
5. 櫻岡	22. 浅野
25. 金	7. 廣田
13. 岡庭	13. 中野
9. 相川	8. 床井
1. 矢口	1. 谷
27. 加藤	15. 山口
15. 小田原	2. 長谷川
11. 井上	14. 成瀬
2. 中西	6. 中村

関東学院大学 vs 産業能率大学

4月19日(土)
13:50K.O.
産能大G

3連勝と好調の関学大と、関東リーグでまだ勝利のない産能大との対戦。明暗がくっきり分かれている両チームだが、産能大は光明を見出すことができるだろうか。

関学大は前節、平国大と対戦して5-0と大勝した。5得点というのは、関東リーグにおいてチーム史上最多得点だ。平国大は決して大崩れするチームではないが、狙いとしている攻守の切り替えの速さから、シュート8本で5得点という効果的な攻撃につなげた。特に、先制点から3点目まですべてに絡んだFW萱沼優聖(3年)は最前線で攻守にわたり存在感を示した。「一人ひとりが、ゴールを目指すプレーができた」と石村大監督が評価したように、全体的に前へ運ぶ意識と運動量でも相手を上回っていた。それでも、「点差ほどの差はないゲーム。前半に我慢して先制点を取れたのが大きかった」(石村監督)。結果的に大量点になったが、重要なのはこの意識を持ち続けること。連勝はどこまで続くか。

一方の産能大は、第3節も4失点を喫して敗れ、3試合で12失点と初の関東リーグに苦戦している。もともと、「相手によってウチの特徴を最も生かせる組み合わせを考えている」(加藤望監督)というように、昨季からメンバーは固定しない方針だが、毎試合4失点という

成績に、メンバーや布陣も試行錯誤の現状だ。前節は、ここまで無得点だった東洋大に、開始3分の先制点を皮切りに前半で3点を許した。「試合の入りが悪い。相手の状況に合わせてしまって、やるべきことができていない」(加藤監督)。それでも、シュートまで持ち込む反撃の場面も作り出せているだけに、前半での複数失点を避けたいところ。今節はホームでの関東リーグ初開催。ぜひとも初勝利を狙いたい。

<昨年の対戦>リーグ戦での対戦はなし

関学大	産能大
4. 久保	6. 遠藤
8. 普光院	11. 青木
2. 吉田	25. 渡辺
9. 富樫	20. 斎藤
7. 太田	33. 浜下
1. 井田	31. 安田
10. 土館	34. 越智
3. 原島	3. 藤原
33. 萱沼	4. 楠元
11. 中村	32. 上長
32. 木村	12. 齋藤

東洋大学 vs 法政大学

4月20日(日)
13:50K.O.
上柚木

前節で今季初勝利を飾った東洋大と、初めて勝利を逃した法大との対戦。ここから巻き返していきたい東洋大だが、法大も好調だけに、接戦が予想される。

東洋大は2年ぶりの2部リーグでスタートにつまづき、0-1での連敗の後ようやく初白星を手にした。それも、関東リーグ初昇格の産能大相手とはいえ4-0の快勝であった。無得点で迎えた第3節であったが、試合開始早々の3分、そして10分と得点を重ねてリズムをつかんだ。しかし、古川毅監督は「勝つには勝ったが、前半は褒められた内容ではなかった。後半のほうがチームとして戦う姿勢や、やるべきことをやってくれた」と話し、立ち上がりの得点で緩みがちになった精神面と、失点には至らなかったが簡単なミスからピンチを招いた場面などを指摘したようだ。内容を充実させることで結果につなげようとするチームだが、勝つことへの執着心が課題でもある。法大の攻撃を抑え、勝ち切れるか。

その法大は前節、青学大と対戦して2-2で引き分けた。連勝を伸ばしたかったところだが、2度のリードを追い付き、負けなかった点は今季の勝負強さと見ることもできる。それでも、相手の運動量が落ちた試合終盤は、サイドバックの押し上げも含めて総攻撃を仕掛け、

逆転の大きなチャンスも作っただけに、悔しい引き分けでもあった。「2回追い付いた粘りは評価できるが、一度追い付いたところで流れを持ってくるパワーを見せられなかった」(長山一也監督)。ハーフタイムからFW高橋健哉(4年)を投入して流れを変えたが、48分に与えたPKが痛かった。ただし、攻撃陣は引き続き好調を維持している。東洋大の堅実な守備網を破り、主導権を握っていけるか。

<昨年の対戦>リーグ戦での対戦はなし

東洋大	法政大
24. 池田	27. 山田
28. 仙頭	6. 星
4. 郡司	4. 清水
10. 平石	3. 宗近
15. 小山	26. 伊藤
1. 浅沼	12. 袴田
14. 小山	25. 西室
11. 佐々木	18. 鈴木
5. 田口	22. 田代
7. 齊藤	16. 青島
16. 石坂	2. 永戸